

知的障害福祉研究

support

さぽーと

I

Jan.2017
No.720

特集

自分らしく生きたい

— 意思決定支援について —

訪問記

福井県・社会福祉法人福授園

SEMINAR

〔福祉の人材育成〕
第1回 福祉現場でのメンタルヘルス対策
—メンタルヘルス対策のポイントとセルフケアの方法—



Report レポート

思春期における性教育の取り組み

～サポートセンター PASSO の実践から～

大阪府・社会福祉法人北摂杉の子会
サポートセンター PASSO 児童発達支援管理責任者（臨床発達心理士）
大澤佳世子

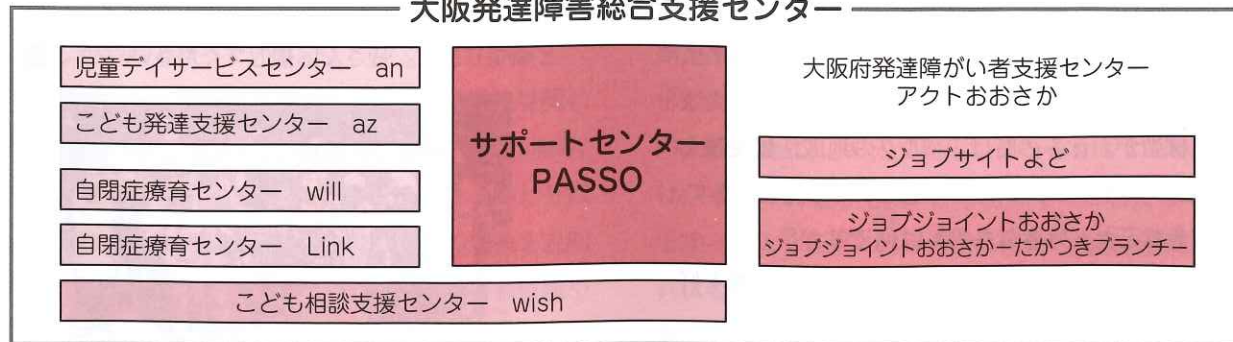
I はじめに

社会福祉法人北摂杉の子会は、自閉症・発達障がいのある方を支援する福祉施設として大阪・高槻で誕生しました。その後、幼児・学齢期から青年・成人期にわたって一貫した支援サービスを提供するために「大阪発達障害総合支援センター」を発足しました。「大阪発達障害総合支援センター」では、「地域に生きる」の理念のもと、主に地域で暮らしている障がいのある人たち、家族のさまざまなニーズに応え、必要とされる支援サービスと生涯にわたる支援体制の創造を目指す「地域・一般化」と、大阪府全域を対象として自閉症・発達障害のある人たち、家族の支援に特化した「広

域・特化」という2つの長期目標の実現に向けた継続的な支援サービスの提供と、それを可能とする支援体制の創造に取り組むことを目的としています。

現在、幼児・学齢期から青年・成人期にわたって一貫した支援サービスを提供するため、児童発達支援部〔就学前期・学齢期を対象とした療育センター（児童デイサービスセンター an, 自閉症療育センター will, 自閉症療育センター Link, こども発達支援センター az）, 思春期・青年期を対象とした療育センター（サポートセンター PASSO）, こども相談支援センター wish〕および成人期や支援を担うジョブサイトよど, ジョブジョイントおおさか等で構成されています。

大阪発達障害総合支援センター



II サポートセンター PASSOとは



児童発達支援部 サポートセンター PASSOでは、放課後等デイサービスの福祉制度を活用して、小学校4年生以上高校3年生までの自閉症・高機能自閉症・アスペルガー症候群等の発達障がい児の専門療育を実施しています。彼らは思春期を迎え、学習や同世代の人間関係や親子関係の悩みなどを抱えながら、ライフスキルの獲得や自己理解、感情のコントロール、社会性の向上を目指し通所されています。

(1) サポートセンター PASSO

事業所名：サポートセンター PASSO（放課後等デイサービス）

開 所：平成27年4月1日 定員1日10名（現在51名が利用中）

所 在 地：大阪市淀川区十三（阪急十三駅から徒歩7分）

営業時間：9:30～18:00（サービス提供10:30～17:40）

対 象 者：・大阪府下に在住の方（大阪市、堺市在住の方含む）

- ・小学校4～6年生・中学生・高校生
- ・医療機関で自閉症・広汎性発達障がい・アスペルガー症候群（＝自閉スペクトラム症）、ADHD、LDの診断を受けた児童
- ・1年目は保護者が保護者研修に必ず参加できる方
- ・小学生は保護者または支援者の送迎が可能な方。中高生は自力通所可。送迎サービスなし

(2) 各コースの紹介

学齢児コース：小学4～6年生 15:00～16:10

中高生コース：中学1年生～高校3年生 16:30～7:40

※月・火・水・木 月に1～2回、年間20回程度



サポートセンター PASSO のある十三杉の子ビル



サポートセンター PASSO 支援室

2～3人のグループ療育

プレミアムコース：完全個別療育（火・水・木10:30～11:40）

上記コースはいずれも3年間継続可能。療育終了後のお子さんに対しては学校や家庭の悩み・進路選択や心身の不調など、本人の悩みに対する相談対応や余暇活動・社会性の開発・趣味の共有などを目的としたグループ活動等のフォローアップを実施。

フォローアップコース：3年間の療育を経験して自己理解が深まった中高生が対象。

PASSOくらぶ：（土曜日開催 生き物くらぶ・料理くらぶ・科学発見くらぶ等）余暇活動の場所の提供と社会性の向上。3～4名の子どもが主体的に計画を立て活動。
就労準備プログラム（6～8名）

- 1回目……オリエンテーションでビジネスマナーや自分の目標について確認
 2回目……同じ建物内にある就労移行支援事業所（ジョブジョイントおおさか）で、職業訓練の体験実習
 3回目……それぞれの実習内容についての自己評価・他者評価により今後の自身の目標を確認

(3) PASSO (本人) 相談

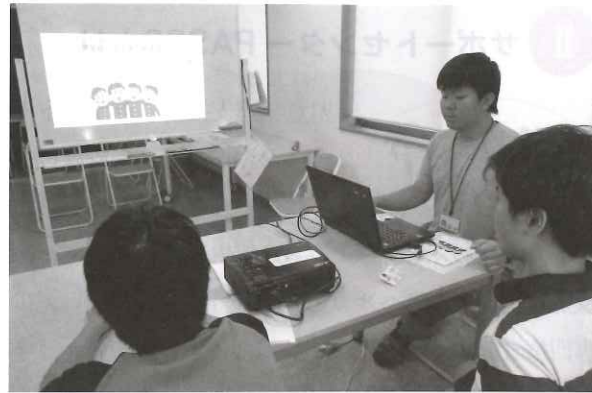
相談すれば解決することを知り、自ら相談する力が出てきた中高生が自身で申し込みをし相談する。学校、進路、家族のことや友人関係についての相談が多い。

Ⅲ 家族支援

当センターではお子さんへの療育のほかに、保護者がお子さんに対する理解を深め、思春期特有の課題や対応について学ぶ**保護者研修**を開催しております。また、家庭療育・学校・地域に関する様々なご相談に応じる**療育相談**、お子さんの認知理解や行動特性を把握し家庭や学校での支援目標を明確にするための**発達検査**を行っております。18歳を迎え高校3年生になったお子さんの相談は各地域の相談支援事業所や医療機関などにつないでいきます。家族は引き続き、年齢制限なく来所相談に来ていただいております。

Ⅳ 中高生の第二次性徴における理解とマナーの指導の必要性

サポートセンターPASSOの療育で取り組むことは、年に2回の個別支援計画面談で決定していきま。療育開始前に実施したTTAP（自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィール）の領域を中心に、ライフスキル（身辺自立・家事・仕事・学習・余暇）行動管理、コミュニケーション、社会性、自己理解についてそれぞれ目標を立てます。



男子マナー講座の様子

思春期のお子さんですので、身辺自立については、清潔習慣や第二次性徴についての支援についての希望が多く、家庭では取り組みが難しい方が多くおられました。

中高生のお子さんの第二次性徴の理解やマナーについては、これまで個別に書籍等を参考に支援してきましたが、年々利用者が増え、成長とともに性教育が目標に上がり、「第二次性徴における理解とマナー」について統一した講座が必要と考えました。

高機能自閉症・アスペルガー症候群のお子さんには理解できる書籍による説明や文章などによる説明も、知的障がいのある子にはわかりにくく、新たに知的障がいのある中高生を対象に男女別に教材を作成し、指導する必要を感じていました。

V 解決方法と成果

マナー講座という名称で男女別に講座を開催しました。

(1) 男子マナー講座

4回～5回連続で簡単な講義をパワーポイントで実施。クイズ形式によるおさらいをグループで実施。対象は、知的障がいのある男子中高生（4回）5名、高機能自閉症の男子中高生（5回）2名。すべて男性スタッフが対応し、各回15分程度の内容で行いました。

1回目「おとなになること～体の変化について～」

絵や図で示す

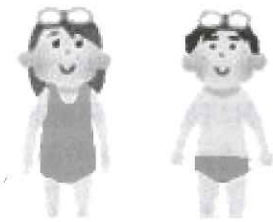
男子マナー講座の導入として「第二次性徴」について理解を深めることをねらいとしています。体の変化についてイラストを使いながらどのような変化が起こるのかを見ていきました。体の成長は一人ひとり異なるということを知り、「体の変化」は「自分が大人に成長している証拠」ということを確認していきました。

2回目「マスターベーションについて」して良い場所と悪い場所の確認

「マスターベーションをすることは悪いことではないと知る」という部分にねらいを置いたうえで「プライベートなこと」だということを確認し、「していい場所としてはいけない場所」について利用者と一緒に考えていきました。

3回目「プライベートゾーン～じぶんだけのばしょ～」

イラストを使って、男女それぞれの「プライベートゾーン」はどこなのかを参加者と考えました。プライベートゾーンは男女それぞれにとって「自分の大切なところ」ということの理解をすすめて、他者に見られない・見せないことを考えます。



4回目「清潔習慣について」洗顔・ひげそり・デオドラントなど

第二次性徴の時期に気をつけておきたい「生活習慣」について「どのようなものがあるか」「どのように対処すれば良いか」について確認していきました。参加者には「身体を清潔にする“技”を知ろう」ということで進めていきました。最後に「身体が清潔だと自らも周りも気持ちよく過ごせる」ということを理解することを目指します。

5回目「心～気持ち～」

思春期の心の変化「気持ち」について理解を深めていきます。この時期は異性を好きになったり、他者と

自分を比べて落ち込んだり気持ちの変化がよくあるということについて考えました。自分の気持ちを信頼できる大人に相談すると良いということも確認しました。

(2) 女子マナー講座

3回連続で簡単な講義を絵や写真満載の冊子で実施後、クイズ形式のおさらいをグループで実施。対象は、知的障がいのある女子中高生4名、高機能自閉症の女子中高生3名。すべて女性スタッフが対応し、15分程度の内容で行いました。

1回目「生理について」

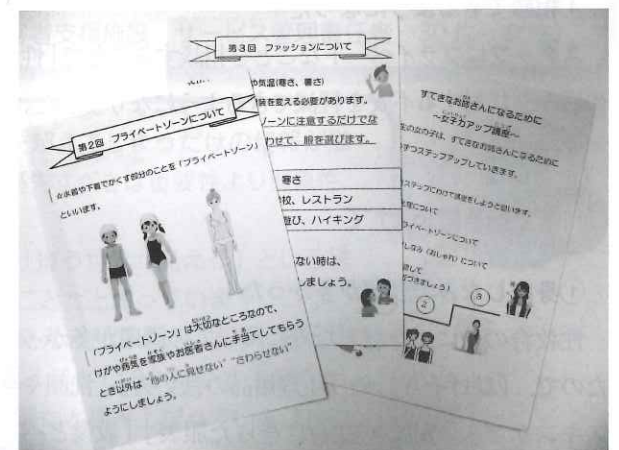
生理の簡単な仕組みから、生理中の過ごし方、「こんな時どうする？」など場面ごとの対処の仕方について取り組みました。実践的な活動として生理用品（ナプキン）の後処理の仕方などそれぞれ実物を用いて確認しました。

2回目「プライベートゾーンについて」

「プライベートゾーン」とは何かを確認し、プライベートゾーンを見せない下着やインナーパンツなどのグッズの紹介も行いました。

3回目「おしゃれ（ファッション）について」

TPOに合わせた服装について考えました。ファッションの基本のマナーや気温や季節によって服装を考えました。



講座の時に使用した冊子（女子マナー講座）

VI マナー講座を終えての効果検証

①「性」についての知識の再確認

保護者にも協力いただき、家庭内の写真なども使って講座をしたので、身近なこととして理解を深めることができました。また、グループの中で情報を共有することで、普段は聞けないこと、他者はどのようにしているかを知ることができ、自分の対処を振り返ることもできました。

②個々に合わせた「性教育」

中学校や高校、支援学校で「性教育」は行われているものの、全体に向けて行っているために、「何のことかよくわからなかった」「恥ずかしかった」という声がありました。サポートセンターPASSOでは、個々の理解力に合わせて、イラストや写真を使ったり、それぞれの集中力に合わせて「性教育」を実施しましたので、「よくわかった」と言っていました。

③意識の変化

スタッフの話聞くだけでなく、自身でチェックできるシートや、実物を用いた取り組みは15分程の講座の中でも集中して取り組むために効果的でした。パワーポイントや確認のためのクイズプリントを使用することで、意欲的に取り組むことができ、その後のひげそりや、身だしなみなどのライフスキルについても自ら取り組む姿勢が見られました。

④相談できるようになった

スタッフにプライベートなことを相談することで「性の悩み」に対する不安を軽減できるようになりました。

VII 今後に向けて

①身だしなみの課題が多かった！

性教育の前に、身だしなみに関しての課題が多かったため、「ひげそり」や「生理用品の使い方」「洗顔やスキンケア」「季節やTPOに合った服装」「散髪とヘアスタイル」などの項目についてのアンケートを利用

者や保護者にとった後、「身だしなみ講座」を考えたいと思います。

②個々に合わせた教材の充実

男女マナー講座で使用するパワーポイントやクイズプリント、レジュメをそれぞれの特性に応じて試行錯誤し、対応できるようにしたいと思います。

③相談できる環境づくり

男女マナー講座が終了後も、相談や療育の中での時間を使って、普段学校や家では聞けない「性」や「身だしなみ」についての相談が気軽にできる環境を提供していきたいです。

④保護者向けのフォロー

保護者から「“性”についてどう教えたらいいのかわからない」「どの程度関心があるのかわからない」という声があります。保護者研修や療育相談などの機会を使って保護者向けに対応の仕方、男女マナー講座でどういうことをしているのかなどを知っていただくために、今年度は保護者研修の「人とのかかわり」の研修時に「男女マナー講座」でやっている内容の紹介や、参考書籍の紹介を実施しました。その際に、「他の兄弟姉妹（姉妹）にもこの講座を受けさせてやりたい！」「学校の先生にも教えてあげたい！」などのお声を聞きました。

この講座は、サポートセンターPASSOの個別専門療育の中で、個別のアセスメントの下に利用者に向けた指導をしておりますので、安易に個別のアセスメントのないままに、利用者以外に向けての講座を開催できないと感じております。でも、保護者の上記の声にお応えするためには、保護者向けの研修の中でわかりやすく情報提供していくことが大切だと思いました。思春期は、環境の変化も多く、関わる人も増えていき、自閉スペクトラム症のお子さんにとっては不安や心配が多い時期です。その時期だからこそお子さんにわかるように「性」について隠すことなく正しく理解してもらえるように、今後も男女別のマナー講座や身だしなみ講座を開拓し続けたいと思います。